

○調査目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

我が校の強み・弱み

【教科（国語・数学・英語）に関する調査】

○**国語の強み**：「知識及び技能」の領域は、全国と県平均を上回った（資料1）。授業の中で継続して漢字の書き取りや意味調べ、短文作りなどを続けてきた効果の表れだと考えられる。

○**国語の弱み**：「思考・判断・表現」の領域は、県平均を上回っているが、全国平均よりわずかに低い。文章の校正に関する分野に課題が見られるので、主述の関係を基本とした文法内容の見直しが必要である。

○**数学の強み**：どの領域に関しても全国と県平均を上回った。特に「図形」の領域はその差が大きい（資料2）。基礎的な知識・技能を身に付けており、類題に対応できていると考えられる。

○**数学の弱み**：記述式の問題で無回答の割合が大きかった。記述させたり、考え方を問う活動を多く取り入れていく。またグラフやICTなどを活用して学びを深めていけるようにする。

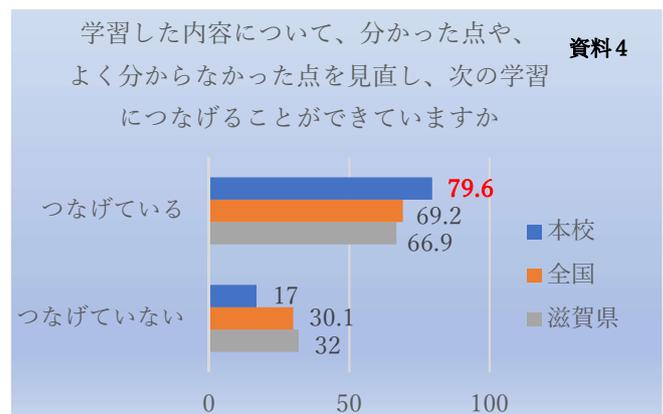
○**英語の強み**：「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点はいずれも全国と県平均を上回った。特に「思考・判断・表現」の観点は、間違っても最後まで英語で書こうとする姿勢が質問紙からも見られ、その成果が出ている（資料3）。

○**英語の弱み**：「読むこと」の数値は全国よりも上であるが、文と文との関係を正確に読み取ることは全国と県に比べて若干低い数値である。日々の授業からリスニング活動を積極的に行うことや、長文では接続詞に注目して読む活動を多く取り入れていく。

【生徒質問紙調査】

○**強み**：「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問には肯定的な回答が多く、全国と県に比べて高い数値となった（資料4）。各教科等で授業の振り返りを行い、それに伴うフィードバックの成果が出ている。

○**弱み**：「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の数値は全国と県に比べて若干低い数値である。昼休みの図書室の開館日を増やしたり、朝読書の時間をさらに確保したりするなどの改善が必要である。



【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

- ◇国語：正しい文法知識を身に付けた上で自分の文章を校正したり、仲間と考えを伝え合ったりする機会を増やすことで「話すこと、聞くこと」「書くこと」に関する力の向上を図る。
- ◇数学：基礎的、基本的な学習内容の定着を図り、数学的活動を通してより探究的な学習に力を入れて指導を進めていく。
- ◇英語：学習した表現を使って、ペアや班でやり取りすることや、英文を正しく書く活動を充実させる。また、単元ごとにeライブラリの学習を行い、個々のコミュニケーション能力の育成につなげていく。
- ◇全体：生徒一人ひとりの資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限に活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく。